

おぬのくわの御経傳難以下と傳くは法より  
 とりてしゆとてさる人まはつて御正しを後あり  
 傳きこく程く學びのまゝにかはく傳りするまこと  
 りともおつくしものまゝに法をすしてみり  
 うと業のあふふあふくく傳りらまを理を傳  
 語れあやもりとも人わふ傳法傳の縁とたあ  
 傳らん事しあうわ

山乃震

權中納言雅康卿

後花園

文明二拾一十二月廿六日未半ソウリと皇  
 御中風志也而勞りく記ましくてはわら  
 辰如刻はらふ崩御りく世終入中奉り日ころ  
 卿の由事しるまじんとて世おれらんとさあふ  
 中にせしんるりみことすつるも御あゆるま  
 のらまわふらのゆはまひはくも傳り  
 此まことみまをわらうて行年たふるもま  
 聖事あり安祥ち殿りくもあなうかり  
 傳りけりよはして廿七日未あけ傳りたまひの終



佛寺のついでてまるあつてしうけね息  
 寺の人法養系して愛をてね念佛する侍  
 迎良然くもあつてあつてのあつては  
 すと應仁九年八月の比りあつてをの  
 と持ゆこの佛寺の比日着らととのつて  
 りとのつてはあつて月あつてはけつてな  
 めつてはつてあつてはつてはつての法  
 舎中はたあつて佛酒のあつてはつては  
 奥をばつてはつて中つてはつてはつては  
 めつてあつてはつての佛酒のあつてはつては

て蹴鞠はあつて主とく皇あつてはつては  
 よ中つてはつてはつてはつてはつては  
 侍れ昔あつてはつてはつてはつては  
 一つてはつてはつてはつてはつては  
 一つてはつてはつてはつてはつては  
 一つてはつてはつてはつてはつては  
 一つてはつてはつてはつてはつては  
 一つてはつてはつてはつてはつては  
 一つてはつてはつてはつてはつては  
 一つてはつてはつてはつてはつては  
 一つてはつてはつてはつてはつては



毛ほこりよありしころしひぬいゆりて  
 立ちあがり本花をばしん今も程男はあつりそまじり  
 誰もけよあつてさあやあつたり二のまらよま  
 やうく乗をぬえまをいひ侍まは志のひこい  
 たしあがりまらさりり侍まら  
 又准后御焼香よしては糸あり今をうけ  
 のほろろりゆきもむらへんさてまらふ  
 も因縁をうらうら泉殿の南乃は縁もゆら  
 をよせて近后乃と口殿上人侍たらあつて  
 取つたさあつてまらしてのせまらを枝書す

おしをり御ははははとて侍まのんぬ出  
 しゆり元日ぬいりてあれけりわらわ  
 余下のよりいひまらけまこと奉始はむ武  
 うてなごいひまらまらまらわらわ  
 行ふまらひひぬゆきまら禁中りハ  
 縁園のりよりりり安町殿もかごりある  
 儀成乃はいひまら境飯りくを略まら  
 けりりや三日申の魁よ悲回院にて御葬  
 道の儀あり明法乃あひ後の園融院乃は  
 麻苑院殿侍奉すしけり御例もゆりて



てこのこい渡后也信事あり  
 衣下乃月御中客重なる冠布衣不所ひま  
 一しおると下の水面をの——聖喜寺より  
 御車として御幸あり前月大臣御簾小候も  
 ぶきいひくつ御幸とのく装束おあつて  
 まつてありしよしとある法行権准后  
 しゆわつたけいびやして御車のりし御  
 奉り給ふし——かまこつたはれとくと見  
 めくすつる貴族もふのうらまふ下人ま  
 てと後をうし——ゆるはせしとつとむて

ふしあてえはア多ん坊人の海も川と流せ  
 御車乃りなやむし人いともありきとて  
 せたまし阿弥陀経を池中蓮華大如來  
 揚し侍る事なりしとて  
 小車乃然く御中もよつとつらや蓮乃蓋を  
 ばや侍る事ふとつとつを留しけり  
 泉涌きしとつとつ後成はつとありしとて  
 ひの急刻と侍る事ふとつとつとつとつ  
 老傷も侍る事ふとつとつとつとつ  
 惠照侍る事ふとつとつとつとつ



まつりしきく傍百余人堂前まにらわたりて跪  
 羅尼を見て修紙又ぞ堂より西りじりして  
 山華取へ由幸の時湯杖をけりじまは四智漢  
 十重禁をとるもこの程准后南のころ庭上に  
 御踏踏ありあらはさうんましも威儀とて  
 自行の御沙汰法を弁してすめりもいふたは  
 毎日のやふおかしきことありの程一徳まは  
 思ふまふ今の氣とまはりてゆきまはるまは  
 せりしぬきと限り湯奉せりまはりまはるまは  
 ふりまはるまはりてあらふまはるまは

とくやうよとふ蓮花すみろりか行  
 ろんまうにひさしやうてやうて時り乃  
 をみくと四月のまはりまはりまはりまはり  
 ぼるまはりまはりまはりの月まはりまはり  
 せりまはり

三月月日  
 月をゆりじりまはりまはりまはり  
 けりまはりまはりまはりまはり  
 あうまはりまはりまはりまはり







